

ユーザ訪問

今回のユーザは・・・ 佐藤印刷株式会社



佐藤印刷株式会社
代表取締役 佐藤 泰光 様



今回は、DTPターボサーバーユーザでは現在唯一北海道を拠点としている佐藤印刷(株)をご紹介いたします。佐藤印刷様は道内の他、東京など遠隔地からの注文も積極的に請け負い、業務をこなされています。今回は、DTPターボサーバーを使ったワークフローの利用方法について、同社代表取締役・佐藤泰光様にお話を伺いました。

超スピード導入の理由

佐藤印刷様は札幌市内にそれぞれ営業所と工場を構え、カタログ・パンフレット・チラシなどの商業印刷やビジネスフォームなどの企画・デザインから印刷まで行われており、その95%が道内で受注するものです。残りの5%は、東京その他道外で、主に道内取引先の支店からの発注が多いそうです。特に商業印刷の部門では、例えば企業の会社概要に見られるような特色や特殊加工を施すような、手間がかかりなおかつ高いクオリティを必要とするような印刷物を得意とされています。

さて、佐藤印刷様にご導入いただいていたシステムはDTP Turbo Server ver.4 | Sun E220Rモデルで、Sun Enterprise220Rを中心にRAIDシステム900GB、テープバックアップシステム240GB、またソフトウェアはFullPress16クライアント、WebNativeという構成となっています。さらに3月下旬、アーカイブシステムとして150枚スロットのDVDチェンジャー、9月中旬にCPUとメモリを増設されました。



佐藤様が初めてDTPターボサーバーをご覧になったのが昨年10月に行われたJGASの時の事。帰りの飛行機の時間が迫る中デモをご覧いただき、今年の1月には設置ということで、非常にスピーディなご導入でした。「取引先から『以前に使ったポジを画像データでほしい』などのデータ利用依頼がどんどん増えて、いちいち対応するのが大変だったんです。逆にお客様の側もその都度連絡してはデータをもらう、という作業が面倒だということ事で、早期の画像データの公開を求められていました。」と佐藤社長。来た依頼に対して宅配便で送ったりメールで添付したりという作業は、案外手間がかかるものです。また、そのデータの管理自体もMOで落として保存されていたので、その依頼されていたデータがどこに入っているのかを探すことにさらに時間がかかっていました。これらの問題の解決策として、「画像データベースを構築」でき、さらに「その画像データをWebで公開できる」という条件をクリアしたのがWebNativeおよびVentureだったというわけです。今まで使用して来たOPIサーバの容量が圧迫されはじめていたこともありましたが、「導入を考えたのはVentureがあったからです」と、データベースでの画像データの一元化を重要視しての導入でした。

社内外それぞれの利用方法

導入後、佐藤印刷様では目論見通り社内・社外両方でこのシステムを活用されています。社内ではサーバ内に入っている画像データはもちろん、アーカイブしたデータをまたリストアしてデータの再利用を計っています。また社内では、FullPressのFPO(低解像度画像)ワークフローを利用されているので、時間がかからないスムーズなワークフローが確立されています。以前からOPIを利用していたこともありFullPressのフローへの移行は特に問題はなかったようです。FullPressのFPOは既存のOPIに見られるようなリンクの抜けもなく、また高速な処理が可能なので、効率良くお使いいただいています。



導入いただいたDTP Turbo Server ver.4
左側はDVDチェンジャー

一方社外では、Web上で顧客にデータを公開し、すでに多くの取引先が利用されています。WebNativeの全ての機能を利用可能にする訳ではなく、FPOデータの150dpi / RGB / TIFF形式でダウンロードできるように設定されています。また社内の利用を考え直接レイアウトに使えるという意味ではCMYKのEPS保存が最適かもしれないのですが、あえてRGBのJPEG形式でデータベースを構築しています。これはデータの流用を希望する顧客のほとんどはWindowsユーザである事と、データ量の多いEPS画像ではより大きなサーバ容量を必要とする事からです。WebNativeはダウンロード時の時間を短くするため圧縮されたデータがダウンロードされるようになっていますが、圧縮・解凍という手順に不馴れなお客様には解凍ソフトウェアをお渡しし説明する事で対応されています。「取引先とのWebNativeワークフローを使った優良事例を増やし、さらに多くの顧客に利用していただくために紹介できるようにしていきたい」と佐藤社長はおっしゃっています。

「DTPターボサーバーを最初に導入した時は、今までのフローを大きく変える訳ですから、社員の側としてはいろいろ不安などもあったようですが、導入してからは『もう今までのフローには戻せない』と言っていますよ」と佐藤社長。初めて展示会でご覧いただいてからほぼ1年、佐藤印刷様ではWebNative・Ventureを中核にしたワークフローの基本的な流れを確実に押さえていらっしゃいます。冒頭にもあるように、現時点では顧客のほとんどが道内で占められているということですが、インターネットを使ったビジネスであれば場所は道内外を問わないので新しい市場の開拓にもつながることと思います。またWebNativeによるサービスの他にも例えば顧客の在庫状況データベースを検討されるなど、さまざまな試みで顧客の囲い込みを図っていらっしゃるとのこと。今後も顧客サービスを充実させ、付加価値を持った印刷会社として活躍していただけのではないかと感じました。

本誌に記載されている写真、イラスト、記事の無断転載、使用を禁止します。
ご意見、ご要望をFAXまたはE-mail (news@vpj.co.jp) でお寄せください。

編集後記

実は初めてのアメリカ、初めてのサンフランシスコでした。何が問題って英語について出発前から非常に頭を悩ませておりました。少したけ英会話教室などに通っていた時期もありましたが、そんなものは数年前の話で... ゆっくり話してもらえばさほど問題ないのですが、現実はその甘くはない。英会話のセンセイ達が、私達に合わせてゆっくり話してくれていたことを今になってようやく実感しました。やっぱり語学は実地訓練が大事ですね。受験勉強で学んだ英単語も言葉に出てこなければ全く意味がない! またしばらく修行の日々が続きそうです。(天)

VPJ NEWS

Visual Processing Japan News

VPJニュース第14号
発行 (株)ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-1-11 青山S1ビル3階
電話番号 03-3498-3464 FAX番号 03-3498-3484
URL http://www.vpj.co.jp/
編集 天野美穂

VPJ Event Review

VPJ イベントレビュー

過去に開催されたDTP関連のイベントの一部をレポートいたします。

contents

- VPJ Event Review
- 実践サーバワークフローセミナー
- PRINTEK TOKYO/東京グラフィックスフェア合同展
- WebNative Venture 製品アップデート
- New Products
- スーパーCUBE/Xserve
- 自動テープバックアップシステム
- トレンド技術動向
- NASについて
- SEYBOLD 2002 SF REPORT
- ユーザ訪問
- 佐藤印刷(株)様

第14号

7/10 アップルコンピュータ(株)・アドビシステムズ(株) 共催 プロフェッショナルDTP環境における「スーパーCUBE/Xserve実践サーバワークフローセミナー」

去る7月10日、東京オペラシティタワー48F・アップルコンピュータ社セミナールームにて「プロフェッショナルDTP環境におけるスーパーCUBE/Xserve実践サーバワークフローセミナー」が開催されました。台風のさなかにも関わらず、80名ほどのお客様にお集りいただきました。セミナーでは、アップルコンピュータ社からのXserveの最新機能の詳細説明や、アドビシステムズ社による話題のプロトコルであるWebDAVと各種アプリケーションとのコラボレーション、そしてXserveを搭載したスーパーCUBEの実機によるデモンストレーションを交えながら様々なソリューションをご紹介致しました。セミナー終了後も、スーパーCUBEを近くでご覧になったり、質問をされるお客様が多数いらっしゃって、スーパーCUBEへの関心の深さが伺えました。



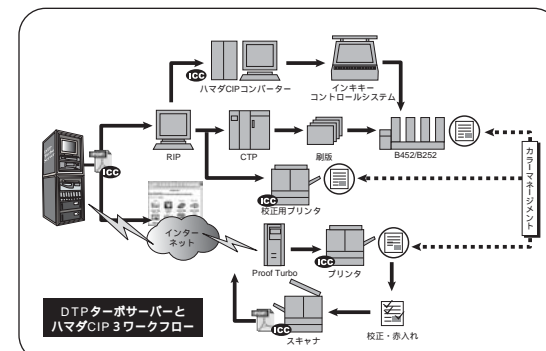
8/28~31 ハマダ印刷機械(株) ご協力 「PRINTEK TOKYO・東京グラフィックスフェア 合同展」

~CIP3ワークフローとDTPターボサーバーによるPDFを活用したプッシュ型リモートプルーフの具体例をご紹介~

8月の28日から31日の4日間、「PRINTEK TOKYO・東京グラフィックスフェア合同展」が東京ビッグサイトで開催されました。今年では国内最大規模の印刷機材の展示会ということで、各社さまざまな機材を展示していました。出力機メーカーによる印刷機の展示・デモンストレーションが多い中、CTP・オンデマンド印刷などの「小ロット・短納期」を意識した製品や、DDCP・ICCプロファイルなどカラーマネジメントに関する出品が目立ちました。



CTPで色校正が出せないという事実は各ベンダーにとって大きなネックとなっていますが、そこで登場するのがICCプロファイルによるカラーマネジメントです。VPJではハマダ印刷機械(株)ブース内に「スーパーCUBE」を展示し、その中に搭載したWebNativeを中心としたリモート校正フローのデモンストレーションを行いました。印刷会社と顧客のPDFデータによるWebNativeとFAXを使った校正のやりとりからWebNativeによって統一されたICCプロファイル情報とCIP3に対応するハマダ製印刷機での出力までをシュミレーションし、簡潔にご説明しました。1時間に1度行なわれたデモンストレーションでは多くのお客様にお集りいただき、立ち見の方だけでも20人以上出るほどの盛況ぶりでした。印刷工程をどれだけ効率化するかということも大切ですが、このワークフローにより顧客とのデータの受け渡しがより簡便になり、また校正にかかる時間も短縮され、さらに顧客との連携・囲い込みも図ることが出来るということがご理解頂けたと思います。



WebNative VENTURE 製品情報 アップデート

フォルダのキーワードをサポート

今回の新機能の一つとして、ファイルだけでなくフォルダもデータベースに対応しました。つまりフォルダそのものの自動的な情報更新や検索が可能になるほか、フォルダに対してのキーワードの付加が可能になりました。

FlashNetとの連携

バックアップソフトウェア「FlashNet」に対応し、アーカイブシステムとの連携が強化されました。DVDチェンジャーやテープライブラリ装置にアーカイブされたデータはオンラインストレージからは消去されますが、WebNative Ventureに登録されていたデータはサムネイルのプレビューとともにデータベース情報をサーバ内に残します。その際アーカイブされたデータがアーカイブ装置内のメディアに登録されている場合は「Near-Line」、装置から外されているメディアに登録されている場合は「Off-Line」という表示が現れます。また、サーバ内のデータだけでなく、アーカイブ後のデータの検索機能が追加され、サーバの内外を問わず保持しているデータの管理がより強力になりました。

ファイルシステムに統合されたSQLデータベースシステム「WebNative Venture」にフォルダキーワードサポートなどの新機能が追加しました。今回のアップデートではバックアップソフトウェア「FlashNet」との連携が強化されるなど、さらに強力に印刷・製版会社の社内外の情報共有をサポートしています。

アップロードファイル名の連続番号の付加

新しいファイルをファイルサーバにアップロードする際、すでにサーバ内に存在するものと同じ名前のデータをアップロードすると、連続した番号が追加されるようになりました。例えばファイル名が「A」というファイルがサーバ内にある上で再度「A」をアップロードすると、自動的に「A.1」というファイル名に変更され、登録されます。つまり更新履歴が同一フォルダ内にそのまま記録されます。

データベース項目削除時のデータベースからの削除

データベースから項目を削除する際に、項目ごと完全に削除出来るようになりました。以前は、項目自体は消去されずに「その項目が削除された」というフラグ(目印)がデータベースのレコード内に残るように設計されていたため、項目を削除してもレコードだけは蓄積され続けていましたが、今回の機能追加でデータベースからの完全削除が可能になり、余計なレコードが残ることがなくなったので、さらにサーバ領域の無駄がなくなりました。

DTP制作フローの新提案！
話題の新製品情報です。

NEW PRODUCTS.

スーパーCUBE / Xserve

Xserveを搭載し新しくなった
DTP Turbo Server のエントリーモデル

DTPターボサーバーのMacOSXバージョンとして定評のある「スーパーCUBE」がこのアッフルコンピュータ社が発売した「Xserve」を搭載し新しくなりました。ファイルサーバ、テープバックアップ装置、UPSなどプリプレスサーバに欠かせない機能をコンパクトにインテグレーション。比較的小規模なDTP制作環境に適しています。

スーパーCUBE
¥7,894,000~
(初年度保守料含)



スーパーCUBEのセンターサーバにはアッフルコンピュータ社がこのほどリリースした新型ラックマウント型サーバ「Xserve」を採用し、無停電電源装置(UPS)、データバックアップ装置としてSONY社の最新型AIT3テープ装置「StorStation」を19インチの「CUBEラック」に収納しております。ワークフローソフトウェアとして、「FullPress」の4クライアント版を標準搭載、AITテープ装置にバックアップするソフトウェアとして「Retrospect BACKUP」を採用しました。またオプションとして、ブラウザベースのファイル管理システム「WebNative(及びVenture)」を搭載することが可能です。「スーパーCUBE」の最大の特長は、アッフルコンピュータ社初のラックマウント型1Uサーバと最新のAIT3バックアップ装置を標準搭載し、DTPターボサーバーの基本機能を網羅しながら非常にローコストであるということです。同時にUNIXベース

の強力なサーバ処理能力が最大の魅力です。またオンラインディスク装置として1TBの外付けRAIDディスクが含まれています。ソニー製AIT3テープ装置「StorStation」も1Uサイズの斬新なデザインながら強力な機能を提供します。最大で2.08TBという大容量のバックアップ(2.6:1圧縮率)を可能にしている上、非圧縮時でも1秒間に12MBという高速なデータ転送を実現しています。そのため、サーバ内のデータ1TBのフルバックアップは非圧縮時で約11時間、圧縮時ではわずか4時間で終了します。AIT3装置を制御するバックアップソフトには「Retrospect BACKUP」を採用。完全自動バックアップやスケジューリング、障害時の復旧機能なども万全です。スーパーCUBEのシステム価格は、7,894,000円から。

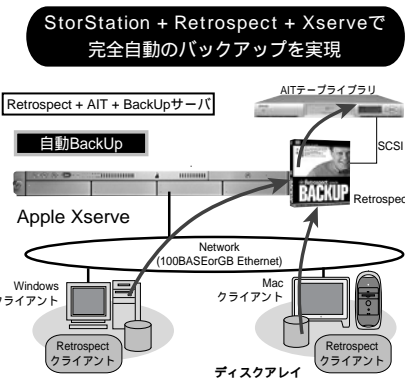
最大2TBの大容量！

自動テープバックアップシステム StorStation

クライアントのデータをサーバが集約して、一括でバックアップをとるネットワーク経由の自動バックアップシステム。デジタルデータ管理をする上で一番の問題である管理の煩雑さを一気に解消します。

1Uの高性能ハードウェア「Xserve」に最大2TBもの大容量を保存可能なソニー製AIT3テープ装置「StorStation」とバックアップソフトウェア「Retrospect」をインテグレーションすることで、簡単にデジタルデータの自動バックアップが可能になるシステムです。AITはテープバックアップ装置として最も高速で大容量であり、コストパフォーマンスに優れたシステムとしてスタンダードになりつつあります。サーバ内のデータはもちろんクライアントマシンのバックアップも万全です。サーバの各種設定、AITの設定・監視作業はWebブラウザ経由で行なうので、システム管理も非常に簡単。DTP制作中にデジタルデータの管理や損失の心配などを一切気にすることのない制作環境が導入できます。またXserveには480GBのディスクアレイを内蔵できるので、ファイルサーバとしても利用することが出来ます。もちろんDTPターボサーバーのオプションとしても搭載可能です。

Net BACKUPシステム
¥3,260,000
(初年度保守料含)



VPJ技術部より...

トレンド技術動向

今回のテーマは、NAS(Network Attached Storage)について

大容量の画像を取扱うDTPでは、扱うデータ量が増大する一方で、しかも、現在の技術ではストレージはHDDをベースに構築することになるため、データ破損の危険が伴います。また社内外問わずネットワークでデータのやりとりが出来るようになった現在ではさらに「データの一元化」という課題が生じて来ました。このような課題に対しデータを安全に一元管理しさらにコストを低く抑えることの出来るソリューションが「NAS(Network Attached System)」です。

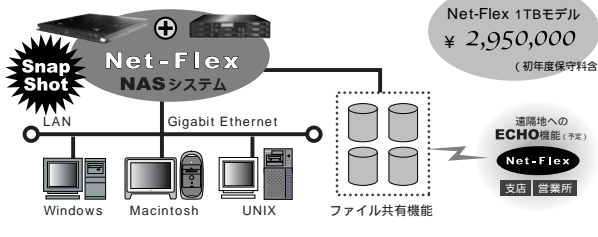
NASは、ネットワークに直接接続する形式のディスクアレイシステムです。いわゆる専用ファイルサーバです。NASのコントローラには専用のLinuxやPCを利用します。NASを利用するとネットワークにデバイスを接続するだけで簡単に利用できしかも高速というメリットがあります。さらにスナップショット機能やECHO機能によるデータの二重化や障害時の復旧作業など、ネットワークストレージとしてのバックアップ体制も万全です。つまりネットワーク上のクライアントやサーバは情報の一元化がはかれると同時に、クライアント側で煩雑なバックアップ作業を個々に行なう必要がなくなります。比較的小規模のDTPラインの共有ファイルサーバとして有効です。

スナップショット機能

スナップショットはその名前の通り特定時間のファイルシステムの状態をそのまま保存します。またスナップショットはスケジューリング機能を持っています。差分バックアップにより、何らかの理由で消失してしまったファイルを元に戻すことができます。但しフルバックアップとしての活用は困難です。

VPJ NASソリューション - Net-Flex

VPJでは低価格で構築できる、信頼のあるNASシステムを提供しております。簡単な設定作業でネットワークストレージ構築が可能になります。LinuxベースのNASエンジンはプラグアンドプレイに対応しており、非常に高速なネットワーク環境を実現します。



Net-Flex 1TBモデル
¥2,950,000
(初年度保守料含)

ジャーナルファイルシステム

ジャーナルファイルシステムではファイルを上書き更新の時にはその処理が正常に終了するまで更新前のファイルを保管します。例えばファイルの書き込み中に停電・システムトラブルなどが起こって、その結果ファイルが破壊されても、サーバを再起動すれば更新前の状態のファイルが復元されます。

ECHO機能(予定)

ECHOは、非同期モードでデータの転送を行なうため、ローカルのネットワークに不可をかけることなくデータの複製を作ることが出来ます。万が一の災害などによるデータの消失からデータを守ったり、全国に支社がある会社、SOHOとのやり取りがある会社のデータ共有に役立ちます。

9月9日から13日までの5日間、
サンフランシスコ・モスコンセンターにて
印刷・デザイン向けの代表的な展示会である
SEYBOLD2002が開催されました。
ここではその全体的な流れやトレンドをお伝えします。
また今回、米国のFullPress・WebNativeユーザを初訪問！
オープンな環境で構築された
シンプルなワークフローを紹介します。



コンテンツ管理・デジタルアセット管理を中心に さまざまなソリューションが一堂に集結

そろそろサンフランシスコでは朝晩の冷え込みが徐々に厳しくなってゆく時期ですが、昼間は日差しが照りつけ、暑いぐらいの陽気の中SEYBOLDは開催されました。場所は街の中心地ユニオンスクエアに近しい、モスコンコンベンションセンターです。昨年までのSEYBOLDはコンベンションセンターの南北のフロアを使用するほどの規模でしたが、今年はその半分に縮小され各企業のブース自体もずいぶんコンパクトに造ってある印象でした。しかしながら人の入りは良く、アドビシステムズ社や新しくOSを発売したアッフルコンピュータ社などのブースには多くの人々が群がってデモンストレーションを聞き入っていました。

多くのカンファレンスやセミナーがある中で今回はPDFに関するカンファレンスに参加しました。約200人収容の会場は時間になると立ち見が出るほどになり、PDFフロアの関心の高さが伺えました。米国ではPDF/X1-aというフォーマットが浸透しつつあり、PDF/X1-aを利用したさまざまな米国企業での導入事例が紹介されていました。PDFでのアーカイブを各企業や官公庁でのWeb上に載せたり、資料として保存することの他、広告代理店や出版社でPDF/X1-aを利用がどんどん拡大しているようです。Time誌、アジレント・テクノロジー社などを例に取り、PDFを導入した後どのくらい効率が上がったか、どういった効果を得られたか、などの具体的な例が挙げられました。

SEYBOLDと言えば印刷・デザイン業向けのシステム・ワークフロー・ソフトウェア・ツールが多く見られますが、その中でもコンテンツ管理・デジタルアセット管理の製品が目立っていました。Xinet社のWebNative / Ventureでは従来のデジタルアセット管理の他、可変印刷やデータのアーカイブ・ SHIPPINGに利用できるサードパーティ製プラグインも紹介されました。ますます機能が充実し便利になりそうです。この他、artesia technologies社などもまたデジタルアセット管理の製品を出展、動画コンテンツにも対応するなど特長を出していました。

FullPress中心のシンプルなワークフローで 高いクオリティを維持

- Anderson Lithograph社

今回初めてXinet社のユーザ訪問が実現しました。今回訪問したAnderson Lithograph社(以下、Anderson)はロサンゼルス他サウスサンフランシスコおよびデトロイトに工場を持つ印刷会社です。米国印刷出版サービスの大手プロバイダであるMail-Well社の関連会社として米国の広告代理店や大手企



モスコンセンター会場入口



Anderson Lithograph社



Anderson Lithograph社 工場内
サンフランシスコ工場内にはハイデルベルグの8色機と小森の8色機が1台設置されている。



500枚MOチェーン駆動アーカイブ
社内データのアーカイブはWebNativeとFlashNetでコントロールされている。

業の企画から印刷まで手がけています。企業のアニュアルレポート、カタログなど高いクオリティを要求され、なおかつ例えば輪転機と平台の印刷を組み合わせるような難しい印刷物を得意とし、特色の使用率は100%だと言うことです。同社ではXinet社のFullPress・WebNativeを導入しており、社内のワークフローの中核として効果を上げています。今回サウスサンフランシスコの支社を訪ね、どのようにして高いクオリティと短納期という課題をクリアしているのかをプリプレス部門のマネージャーであるJohn Franco氏に話を伺いました。

Andersonでは徹底したワークフローの統一を行っています。画像のスキャン後はFullPressのFPO(低解像度画像)を使い、トラッピング・レイアウト・面付けなど含めて全て同じ環境で統一されています。実画像を使用せずFPOを使用しているため、非常に素早い処理が可能になっています。画像リンクの貼り直しや更新はFullPressに搭載されている「Picture Wrangler」というQuarkXpressやIllustratorの拡張機能を使って、オペレータが画像を一つ一つ更新せず一括で処理を行っています。さらに社内のネットワーク環境の中で、タッチ用のクライアントにはギガビット、他は100Baseのイーサネットとそれぞれ使い分けし、処理を早めるために一工夫をしています。

また社内の画像管理ではWebNativeが利用されています。画像の検索・閲覧の他、QuarkXpressのプレビューなど、基本的な機能が非常に良く使われています。社内データのアーカイブは500枚収納のMOチェーン駆動で行います。アーカイブは全てサーバが管理しており、ホットフォルダにデータを入れるとサーバが自動的に指定した時間にアーカイブするようになっています。

特色や特殊加工で埋め尽くされたある企業のカatalogを手に取り「これはプランニングを含めて10日ほどで刷り上げました」とFranco氏。しかしプリプレス部門には4~5台のMacintoshと8名のオペレータしかいません。それなのになぜこのように短納期が可能なのでしょう。「オープンな環境でワークフローを統一し流れを徹底しているからです」とFranco氏は言います。FPOによるワークフローで印刷までの工程を徹底的に一本化しているため、画像の重さに関係なく高速に処理を進めることが出来ます。Andersonでは特色が100%使用されていることもありトラッピングを重要視していますが、FPOの利用によりスムーズに処理することが出来ます。修正箇所が出てワークフローが一貫していることで簡単に前の段階に戻ることが出来、再度進めることも簡単です。

Andersonのワークフローは、余計なものを一切入れずにシンプルなものを構築することでクオリティと短納期の両方を維持しているまさに好例と言えます。ともすれば複雑になりがちなDTPのワークフローですが、流れを一本化しデータ管理を徹底するという基本を押さえれば顧客の要求に応えた印刷物を提供できるのだということを強く感じました。

SEYBOLDSFSM

DesignBuildCommunicate 2002

[REPORT]